

DVD「映像'15 よみがえる最前線～神戸と核と“日米同盟”」上映と、被爆者の貞清百合子さん(灘区在住)のお話を聞く会を開きました

11月21日(土)午後、上記の集会在岩岡連絡所多目的ホールで開かれました(21人参加)。毎日放送が7月27日深夜に放映した番組は、タイトル通り、日本で唯一潜水艦を建造できる神戸が、武器輸出の最前線になろうとしている現状を告発しています。

「今、日本は大きな岐路に立っています。戦後70年を迎える中、安倍政権は平和国家の根幹を支えてきた憲法解釈の変更に踏み切りました。積極的平和主義として、米軍への武器弾薬の提供や、燃料補給など後方支援の拡大を推し進め、日本とアメリカの軍事的な一体化を目指しています。

米軍の後ろ盾が核兵器です。日本で使用され、70年経った今も抑止力として開発をやめません。…しかしこの40年間、アメリカの艦船は一度も神戸港に姿を見せていません。1975年3月、神戸市議会が全会一致で「非核神戸方式」を決議したからです。神戸港に入港する艦船は核兵器を積載していないという証明書を提出しなければなりません。この「非核神戸方式」が、アメリカの核戦略に巻き込まれないための歯止めになってきたのです。

しかし日米同盟が強化される今、「非核神戸方式」は存続の危機を迎えています。貞清百合子さんは「非核神戸方式」に強い思い入れがあります。「戦争なんかに使われる港になっては困るんです。日本中が「非核神戸方式」の港になってほしい。」(番組のナレーションから)

橋本大二郎・元高知県知事が、高知でも「非核神戸方式」を決議しようとして政府の圧力で潰されたこと、井原勝介・元岩国市長が、基地機能の強化に反対して市長の座を追われたことを語っています。井原勝介さんは「「非核神戸方式」は、これからさまざまな困難に直面するでしょう。その時、神戸市民がどう考えるかですね」と。

久元喜造・神戸市長は、神戸市民の代表である市議会が決めた「非核神戸方式」は守っていくと話しています。核兵器を積んだ艦船が神戸港に入港することなど神戸市民は決して許さないでしょう。

貞清百合子さんのお話(1)

DVDを見た後、貞清さんのお話を聞きました。穏やかにお話しされたのですが、7歳の少女の目に焼きついた惨状が、目に見えるようでした。被爆者のお話を直接お聞きすることがどんなに大切か、身にしみました。貞清さんのお話を2回にわけて掲載します。

8月6日の朝

あの日は小学1年生。当時日本国中いろんな所で空襲があつて焼野原になりながらも、広島市は空襲がなかったんです。でも前の晩も飛行機がうろうろして、防空壕に入って朝を迎えたんです。空襲警報も解除になって今から学校に行く、といっても当時私の小学校は軍隊の仮兵舎になっていましたので、私たち低学年は近所のお寺でお勉強してたんです。上級生は集団疎開とか縁故疎開とかで田舎の方に行っているんですが、うちの家族は全部広島市に親戚があったもんで、田舎に行くこともなくその日を迎えたんです。いつものように朝食をすませて、前の晩に空襲がなかったので、近所の子供が4、5人集まって手旗信号を練習するんです。白い旗と赤い旗を作って、暗号で、空襲で親子が離れた時、遠くから話ができるようにということだったんですけど、あの日それは何の役にも立ちませんでした。お母さんと近所のおばさん子供も一緒に練習して、近くのお寺に着いたんです。

原爆の爆風で部屋の中に吹き飛ばされる



貞清百合子さん

縁側に座って中に入ろうかなと思ったら、同級生が「飛行機や！」と言うので「えーっ」と思って上空を見たら、ほんとにきれいな青空で、暑い夏でしたけど、暑いことを覚えてないんですけど、青い空に銀色に光る飛行機だ、と思ったとたんすごい光が、私は爆風で部屋の中に吹き飛ばされて、その後お寺がつぶれて、気絶して、しばらくそのままだったんですが、その間に広島市は爆弾で阿鼻叫喚だったらしいんですけど、私は左からくる爆風で左耳が聞こえなくなり、母に「もう耳は聞こえんけんね。診てもらってもダメだからあきらめんさい」と言われて片耳できたんですが、もう慣らされて不自由はないんです。原爆は1600m上空から落とされて、580m上空で爆発して、爆心地にいた人たちは皆丸焦げになってすごいことになっていたんですね。

助けられて逃げる

私は真っ暗闇の中で小さい明かりが見えるんです。小さかったせいか、物の間にいたのか、体が動いたので這い出してみたら、さっきとは全く違う風景で夜の感じ、あちこち炎が燃えて、茫然としていましたが、その時お寺の奥さんが出てこられて、全身血だらけで立っておられて、それでなおのこと意識が壊れたというか怖さはなくなったんですけど、本能的にお家に帰ろうと思ったところに、知らない消防団のおじさんが来られて、家が全部潰れて瓦ばっかりで、燃えているので瓦が熱くて、おじさんが「ここにおっちはいけんけん、一緒に逃げよう」とおっしゃったんですけど、私はお母ちゃんの所に行くって頑張ったんですが、「お母ちゃんたちは逃げとってじゃけん、おじちゃんと逃げよう」って手を引いたり、おんぶしたりして国鉄の線路に上げてくれたんです。道はないですからね。上がってみると線路も枕木も燃えているんです。その線路の上をほんとにたくさんの方が火傷や怪我をしたひどい状態の人ばかりが逃げていましたが、その線路の上で近所のおばちゃんに会ったんです。おばちゃんに手渡されて動いていたら今度は叔父に会ったんです。26歳の母の弟です。肉親に会えて、いつまでも線路を歩いておれないので下に下りたんですが、下も燃えていて、一番恐かったのはイチジクの木が燃えていてその木の下を通らないと向こうにいけんけんなんです。「百合子走れ！」と言われて、火の粉をかぶって走って通り抜けました。

自分の小学校の前にさしかかったんです。すると学校が燃えていました。1600人の兵隊さんがおられたんですが、殆ど亡くなって79人しか残らなかったそうです。私はその学校にいたら死んでますよね。お寺だったから助かったと思います。

その小学校を通り過ぎてちょっと山手に入ると竹藪があるんです。みんなそこに逃げ込んでいましたが、そこがまた傷だらけの人ばかりで、わたしの思いは、原爆は赤色、血、血、ぐちゃぐちゃの状態の人ばかり、その竹藪に早く入ったので、その後降ってきた黒い雨にあわなくて、ほんとに私は奇跡の中で運がよかったと思います。

ケガ人の行進

その人たちもいつまでも竹藪におれないので、ほんとにケガ人の行進ですかね、ゾロゾロゾロゾロ、私の目の中にはそれだけしか残ってないんですけど。1里歩いたと叔父がいうんですが、歩いて郡部に入ると小学校がありました。そこもケガ人がいっぱい、机の上に寝かされていました。おじいさんがキュウリとなすびの薄く切ったのをつけておられるんです。「薬がないけんね」と。冷やすのに役に立つらしいんですが。逃げて来た人もかろうじて助かったたどり着いた人ばかりでした。



中山高光さんの絵（「NHK市民の手で原爆の絵を」）

新年会&第95回世話人会

と き: 2016年1月15日(金)11:00~13:30

ところ: 杉繁 (和食、飲み物つき、2階いす席) (竜が岡5-1-1 ☎967-1029)

会費: 1,200円

2016年の会の活動について話し合います。どなたでもご参加下さい。

「憲法9条の会・岩岡」事務局 白井篤子 ☎078-967-2758

集会のお知らせ

① 関西広域連合は高浜原発再稼働に合意しないで！

アベ政治をゆるさない第2弾 兵庫県庁包囲行動

首都圏反原発連合ミサオ・レッドウルフさんも参加します

と き：2015年12月19日（土） 13：30～

ところ：兵庫県庁2号館前